三原市立本郷小学校　　第５学年　体育科学習指導案

単元名：キングオブ作戦を見つけよう！

―タグラグビー―

本単元で育成する資質・能力　　論理的思考力･コミュニケーション能力

指導者　　亀竹　敏樹

１　日　　時　平成 31 年 1 月 29 日（火）第２校時（9：35～10：20）

２　場　　所　本郷小　体育館

３　学年・組　５年１組（男子 18 名，女子 15 名）
特別支援学級　自閉症･情緒障害（男子１名）計 34 名

４　単元設定の理由

（１）単元観

本単元は，小学校学習指導要領,第５学年の内容「Ｂボール運動」ゴール型を受けて設定している。高学年のボール運動はルールや作戦を工夫したり,集団対集団の攻防によって仲間と力を合わせて競い合ったりする楽しさや喜びを味わうことができる運動である。低学年と中学年の学習を踏まえ，高学年では，集団対集団の攻防によって競争する楽しさや喜びを味わい，その行い方を理解するとともに，ボール操作とボールを持たないときの動きによって，簡易化されたゲームをすることができるようにし，中学校の球技の学習につなげていくことがねらいとしている。

また，運動を楽しく行うために，自己やチームの課題を見付け，その解決のための活動を工夫するとともに，ルールを守り助け合って運動をしたり，仲間の考えや取組を認めたり，場や用具の安全に気を配ったりすることなどをできるようにすることが大切である。

タグラグビーは個人的技術が他のボールゲームに比べて比較的易しいため児童全員が参加でき，運動量をしっかりと確保することができる。また、オフェンス側は得点を取るためにはどのように攻めればいいか,ディフェンス側は得点を最小限に抑えるためにはどのように守ればいいかを協働的に考える活動を通して作戦を生み出し，作戦の手順を整理して相手に伝えるといった実践的なコミュニケーションを図る場面設定が重要と考える。

さらには，運動を通して自分の気持ちが高ぶった中,児童自身が自分で気持ちを落ち着かせ｢相手を思いやる｣｢意見を受け入れることができる｣｢自分で気持ちを整理する｣という自律的に他者とかかわる心情も育みたい。

（２）児童観

本学級の児童は運動についての事前調査によると,｢体を動かすことが好きですか。｣の質問に対して｢好きです。｣と答えた児童が 34 人中 32 人（男子 18 女子 14）いた。また，体を動かす習い事をしている児童は 10 人いた。このことから，比較的運動が好きな児童の割合が多く，色々な競技に挑戦してみたいという向上心をもっている。しかし，｢思うように動けない｣｢動くのが嫌だ｣｢複雑な動きが難しい｣等を理由に体を動かすのが嫌だと答えている児童も２人いた。

また，日々の日常生活から，なにかに夢中になり，気持ちが高ぶった際には，上手く思いを伝えることが出来なかったり，友達の意見を聞いて自分の考えを見つめ直すことができていなかったりする児童が多

い。特に，勝敗を受け入れられなかったり，意見が重なった際には相手の思いを受け入れられず自分の考えに固執したりするという課題がある。

最後に，児童は4年生時にタグを使ってしっぽ取りゲームを経験しタグラグビーというスポーツ名は知っている状態である。

（3）指導観

指導にあたっては，単元に入る前に道徳との関連を図り，単元を通してチームでの「協力」や「励まし合い」について考えさせたい。次に「単元の最後に，タグラグビーの良い作戦（キングオブ作戦）を考えよう。」というミッションを児童に提示し単元を貫く課題として設定する。その問いに対する活動として単元ごとに「児童同士の練り合い・話し合い」という活動を位置づける。その枠組みの中で次の3点を指導法の工夫として実施する。

1点目に,課題をクリアするためには自分達にはどのような技術や作戦が必要かを児童に考えさせたい。教員が練習内容を決めるのではなく児童に目標を決めさせ，そのためにはどんな練習や作戦が必要かを児童自身から引き出すようにして進めることで，子供達に自主性や必然性をもたせることができるようにする。その際，道具などの具体物や資料を用いて,自分の考えを相手に説明する場面を単元通して何度も組み込むことで，実践的なコミュニケーション力の向上を図りたい。

2点目に，話し合いの際に，相手の意見を受け入れることができない児童がいる場合は，事前に行った道徳の話を振り返ったり,落ち着いて本人の話を聞いたりすることで解決していきたい。

3点目に，作戦等児童から出にくかった場合に，適宜参考の動画・資料を紹介したい。また，運動が苦手な児童がいることを考えながらルールを変更したり，児童が上手くできた場面を積極的に取り上げたりするなど，教師自身が単元を通して肯定的な声かけをし，児童の実態に合った進め方にすることにより児童の自己肯定感を高めるようにもしていきた。

＜本単元で育成しようとする資質・能力とのかかわり＞

本単元では,キングオブ作戦を見付けるという課題を通して，ボール操作とボールを持たないときの動きを考えたり，友達と思いが重なった時にどのように解決するか考えたりする中で論理的思考力やコミュニケーション能力を高める。

5　単元の目標

○タグラグビーの簡単なルールや作戦を理解し，ゲームをすることができる。（知識及び技能）
○簡単な攻守の作戦を考えたり，他者に伝えたりすることができる。（思考力，判断力，表現力）
○タグラグビーに積極的に取組，勝敗を受け入れたり仲間の考えを受け入れたりすることができる。
（学びに向かう力，人間性）

6　単元の評価規準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かい合う力・人間性
タグラグビーの簡単なルールや作戦を理解し，ゲームをすることができる。	簡単な攻守の作戦を考えたり，他者に伝えたりすることができる。	タグラグビーに積極的に取組，勝敗を受け入れたり仲間の考えを受け入れたりすることができる。

７　指導と評価の計画（全６時間）

主題名	資料名	内容
友情・協力の大切さ	願いのバトン	チームで活動する際に、互いに励まし合い、協力して課題解決に取り組もうとする心情を育てる。

時間	狙い・学習活動 ☆学習スパイラル（６つ）を明記	評価規準 知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かい合う力・人間性
1	・タグラグビーの基本を学び，タグラグビーを楽しむ。			◎タグラグビーの基本を理解し，意欲的に取組むことができている。
2	・チームで話し合い自分たちの目標を決める。 課題の設定，整理・分析		◎チームで話し合い，自分たちの目標を決めることができる。	○意欲的に話し合いに参加し目標を決めることができる。
3	・チームでパス回しや、フェイントの練習、トライの練習をする。 情報の収集，	◎相手の取りやすいパスをしたり，フェイントを使ってパスをしたりすることができる。	○どんなパスが仲間がとりやすいかを考えることができる。	
4	・簡単なゲームを通して、上手くトライするためにはどんなことが大切か考え挑戦する。 整理・分析	◎チームで上手くトライするためにはなにが必要か考え挑戦することができる。		
5	・簡単なゲームを通して、ベストオブ作戦を考える。 実行まとめ・創造・表現 振り返り		◎既習事項を生かし，工夫した攻め方を考えることができる。	
6	・ベストオブ作戦を元に、キングオブ作戦を決める事ができる。 実行まとめ・創造・表現 振り返り		◎ベストオブ作戦を元にキングオブ作戦を決め友達に伝えることができる。	○タグラグビーに積極的に取組，勝敗を受け入れたり仲間の考えを受け入れたりすることができる。

８　本時の展開

（１）本時のめあて（目標）

ベストオブ作戦を元に，キングオブ作戦を決め友達に伝えることができる。

（２）観点別評価規準

◎キングオブ作戦を決め友達に伝えることができる。
評価方法：態度，発言，ワークシート

（３）本時で育成したい資質・能力の評価基準（達成した児童の姿）

資質･能力	評価基準（達成した児童の姿）
論理的思考力	A　根拠をもとにキングオブ作戦を選び，友達に説明することができる。 B　キングオブ作戦を選び，友達に説明することができる。 C　キングオブ作戦を選ぶことができない。

（４）学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項（・）	○評価規準　（評価方法）
導入	○準備運動。 ○本時の流れを確認する。	・各チームで準備運動を行う。 ・「ベストオ作戦の中から一番のキングオブ作戦を決めよう」と問いかけ，課題解決意識をもたせる。	
	めあて　ベストオブ作戦を元にキングオブ作戦を決めよう！		
	(5 分)		
展開	○実際にいろいろな作戦に挑戦する。 (5 分×6)	・挑戦しながらもボードを使って話し合えるようにする。 ・ベストオブ作戦のトライするまでの「速さ」と「確実性」に着目し付箋を貼らせていく。	○タグラグビーに積極的に取組，勝敗を受け入れたり仲間の考えを受け入れたりすることができるか（態度，発言）
まとめ	○全体で集まりベストオブ作戦について振り返る。 ○自分なりのキングオブ作戦を決める。 児童の発表内容（例） A：「ぼくはパス&フェイントラン作戦がキングオブ作戦だ	・児童が貼った付箋を見ながらベストオブ作戦の「速さ」と「確実性」のある作戦について振り返る。 ・ワークシートに自分なりのキングオブ作戦を記入し，理由も書かせるようにする。	○根拠をもとにベストオブ作戦からキングオブ作戦を選ぶことができているか（態度，発言，ワークシート）

	と思います。理由は，パスとランを繰り返すことで確実に前に進むことができ，フェイントを入れると相手が惑わされスペースができ，点を取ることができたからです。」 B：「わたしはボール隠しクロス作戦がキングオブ作戦だと思います。まず，ボールを背中で隠すことで相手がだれがボールをもっているか混乱します。次にクロスして走ることによってさらに相手は混乱し，走り込むスペースができ点を取ることができたからです。」 ○本時の振り返りをする。 （10 分）			